年間指導計画参考資料（小学校　国語）

4年

……学校の授業以外での学習が可能と考えられる教材・学習活動

……感染症対策の観点から、指導順序を変更することが考えられる教材・学習活動

数字 ……学校の授業以外での学習時数を差し引いた、学校での授業時数（変更の生じていないものは黒字で表示）

※ なお、年度末までに学習内容が指導しきれなかった場合には、次年度に送ることも考えられる。ただし、その場合、教員間でしっかりと引継ぎをすること。

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
春のうた 1時間（読①） 教：4上p①～1 ◇表現に着目しながら描かれている情景を想像したり共感したりして、工夫して音読することができる。【知】：（1）ク、【読】：（1）エ	1	①「春のうた」を音読し、感想やおもしろい表現について出し合う。 ②擬態語や擬声語、繰り返しなどの表現に着目し、描かれている様子を想像しながら、工夫して音読する。 ③学習の振り返りをする。	【知】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。［知・技　(1)ク］ 【読】情景について具体的に想像することができる。［思・判・表　C(1)エ］ 【学】進んで描かれた情景を想像し、今までの学習を生かして共感しながら音読しようとする。［学びに向かう力、人間性等］
言葉でつながる みんなで遊ぼう 2時間（話聞②） 教：4上p14～15 ◇遊びを題材にした話し合いを通して、互いの考えを認め合うことができる。【知】：（1）ア、イ、【話】：（1）エ、オ	2	①学習課題と活動の進め方を確認する。 ②ペアになり、教科書に提示されたものの中から知っている遊びについて、遊び方を説明し合う。 ③二人とも知らない遊びの遊び方を予想して話し合ったり、他のペアの友達に聞いたりする。 ④学習の振り返りをする。	【知】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。［知・技　(1)ア］ 【知】相手を見て話したり聞いたりすることができる。［知・技　(1)イ］ 【話】必要なことを記録したり質問したりしながら聞くことができる。［思・判・表　A(1)エ］ 【話】互いの意見の共通点や相違点に着目することができる。［思・判・表　A(1)オ］ 【学】積極的に知っていることをもとに共通点や相違点を見つけ、学習課題に沿って話し合おうとする。［学びに向かう力、人間性等］
1　イメージをふくらませて読もう 白いぼうし 7時間（読⑦） 教：4上p16～25 ◇場面ごとの様子や人物の行動を捉え、物語を想像しながら読むことができる。【知】：（1）ク、【読】：（1）イ、エ、カ、（2）イ	7	①学習のめあてを確かめる。 ②全文を通読し、不思議に思ったことなどを出し合う。 ③場面ごとの様子を表に整理し、出来事が起こったわけを考える。 ④不思議な出来事に焦点化して交流する。 ⑤色や音、においなどの感覚語の表現に着目して、受けるイメージをつかむ。 ⑥読んで理解したことを生かして音読する。 ⑦読んだ感想を伝え合う。 ⑧学習の振り返りをする。	【知】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。［知・技　(1)ク］ 【読】登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。［思・判・表　C(1)イ］ 【読】登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。［思・判・表　C(1)エ］ 【読】文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。［思・判・表　C(1)カ］ 【学】表現に着目しながら、進んで物語のイメージを捉えようとする。［学びに向かう力、人間性等］
みんなに伝えよう 見つけたよ、友達の良いところ 2時間（話聞②） 教：4上p26～27 ◇友達との関わりの中から話題を決め、話の中心や聞き手を意識して話すとともに、話し手が伝えたい内容の中心を捉えて聞くことができる。【知】：（1）イ、キ、【話】：（1）ア、ウ、エ	2	①モデル文を読み、友達の良いところや関わる出来事についてスピーチするという課題をつかむ。 ②話す事柄を決め、スピーチの組み立て（話の中心、出来事（エピソード）、自分の思いや理由）を考える。 ③抑揚や強弱、間の取り方などを工夫しながら、友達の良いところを話す。 ④友達のスピーチについて自分と比べながら聞き、感想を伝えたり質問したりする。 ⑤学習の振り返りをする。	【知】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。［知・技　(1)イ］ 【知】丁寧な言葉を使うことができる。［知・技　(1)キ］ 【話】目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。［思・判・表　A(1)ア］ 【話】言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。［思・判・表　A(1)ウ］ 【話】話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。［思・判・表　A(1)エ］ 【学】進んで聞き手に伝わるよう話し方を工夫し、学習課題に沿って意欲的に話そうとする。［学びに向かう力、人間性等］
言葉のいずみ1 漢字辞典の使い方 3時間（知技③） 教：4上p28～31 ◇漢字辞典の使い方を知り、漢字の部首や画数などについて理解することができる。【知】：（2）イ、（3）ウ	2.5	①漢字辞典を使うと、部首、画数、読み方、成り立ち、意味などを調べることができることを知る。 ②漢字の主な部首について知る。 ③「部首索引」「音訓索引」「総画索引」を使った調べ方を知り、漢字辞典を使って漢字を調べる練習をする。 ④教科書の問題などを使って、漢字の読み方や部首、画数を調べることを通して、漢字辞典に慣れる。	【知】辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。［知・技　(2)イ］ 【知】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。［知・技　(3)ウ］ 【学】進んで漢字辞典の使い方を理解し、学習課題に沿って漢字辞典で調べようとする。［学びに向かう力、人間性等］
きせつのたより（春） 1時間（書①） 教：4上p32～33 ◇春の気象や様子を表す言葉や俳句に興味をもち、春を感じた時の様子が伝わるように、詩に表すことができる。【知】：（1）オ、【書】：（1）オ、（2）ウ	0.5	①教科書の写真を見たり俳句を読んだりして、春の気象や様子を表す言葉を知る。 ②春を感じた経験やもの、言葉をもとに、その様子がよく分かるよう、詩を書く。	【知】様子を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。［知・技　(1)オ］ 【書】文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。［思・判・表　B(1)オ］ 【学】進んで語句の量を増し、今までの学習を生かして、詩に表そうとする。［学びに向かう力、人間性等］

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
調べよう　まとめよう 「百科事典」を使って、調べることを決めよう 3時間（知技①読②） 教：4上p34～35 ◇百科事典を使い、具体的なテーマの設定の仕方をつかむことができる。【知】：（2）イ、（3）オ、【読】：（1）ウ、（2）ウ	3	①百科事典を使った調べ方を確かめ、大きなテーマを引く。 ②調べたい具体的なテーマに絞り込む。 ③他の本やインターネットなども参考にしながら、調べたことをまとめる。 ④調べて分かったことを発表する。	【知】辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。［知・技　(2)イ］ 【知】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。［知・技　(3)オ］ 【読】目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。［思・判・表　C(1)ウ］ 【学】進んで百科事典を活用し、学習課題に沿って目的に応じた必要な情報を得ようとする。［学びに向かう力、人間性等］
2　説明のしかたを考えながら読もう アメンボはにん者か 6時間（読⑥） 教：4上p36～45 ◇文章を要約したり、説明の仕方を確かめたりすることで、筆者の考えとそれを支える理由と事例との関係を捉えることができる。【知】：（2）ア、【読】：（1）ア、ウ、カ、（2）ア	6	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②知っていることや驚いたことなどを出し合う。 ③形式段落に番号を付け、文章全体を三つに分ける。 ④意味段落ごとに要点（中心となる語や文）をまとめる。 ⑤文章全体を短く要約する。 ⑥事例の役割を確かめ、文章構造図を書く。 ⑦題名と筆者の考えとのつながりについて自分の考えをもち、説明し合う。 ⑧学習の振り返りをする。	【知】考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる。［知・技　(2)ア］ 【読】段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。［思・判・表　C(1)ア］ 【読】目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。［思・判・表　C(1)ウ］ 【読】文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。［思・判・表　C(1)カ］ 【学】進んで筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係を考え、学習課題に沿って自分の考えをもとうとする。［学びに向かう力、人間性等］
漢字の広場 1時間（知技①） 教：4上p46 ◇4年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。【知】：（1）エ	1	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	【知】第4学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。［知・技　(1)エ］ 【学】進んで4年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文の中で使おうとする。［学びに向かう力、人間性等］
3年生で習った漢字① 言葉をつないで文を作ろう 1時間（書①） 教：4上p47 ◇3年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。【知】：（1）エ、【書】：（1）エ	0.5	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や表記の仕方、漢字などが正しく使われているかなどを確かめ合う。	【知】当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。［知・技　(1)エ］ 【書】間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。［思・判・表　B(1)エ］ 【学】進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして文を作ろうとする。［学びに向かう力、人間性等］
文章の書き方・まとめ方 新聞を知ろう、作ろう 4時間（書④） 教：4上p48～51 ◇書きたいことが明確な記事になるように、内容の中心やまとまりを意識して書くことができる。【知】：（1）カ、【書】：（1）ア、イ、（2）ア	4	①例示された新聞を見て、つくりや記事の表し方について出し合う。 ②メモをもとに記事にする方法や見出しを書くための観点と方法を知る。 ③身近なことから伝えたいことを決め、記事と見出しを考え、はがき程度の大きさの記事にする。 ④記事をグループでまとめ、一つの新聞に仕上げる。 ⑤新聞を読み合い、記事や見出しの付け方などについて、感想をグループ同士で伝え合う。 ⑥学習の振り返りをする。	【知】主語と述語との関係、段落の役割について理解することができる。［知・技　(1)カ］ 【書】相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。［思・判・表B　(1)ア］ 【書】書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。［思・判・表B　(1)イ］ 【学】進んで分かりやすい記事になるように、学習課題に沿って内容のまとまりや構成を考えようとする。［学びに向かう力、人間性等］
言葉を聞き取ろう メモを取りながら聞こう 2時間（話聞②） 教：4上p52～53 ◇必要なことを聞き取り、工夫して書き留めることができる。【知】：（2）イ、【話】：（1）エ	2	①提示された文章をもとに先生の話を聞き、メモを取る。 ②自分のメモと提示されたメモ例とを比べ、メモの取り方の工夫について理解する。 ③先生の話を聞きながらもう一度メモを取る。 ④友達のメモと見比べ、上手なメモの取り方を話し合う。 ⑤学習の振り返りをする。	【知】必要な語句の書き留め方を理解することができる。［知・技　(2)イ］ 【話】必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。［思・判・表　A(1)エ］ 【学】進んで必要な情報の聞き取り方を捉え、これまでの学習を生かして、必要な事柄を判断しながら聞こうとする。［学びに向かう力、人間性等］

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
3　ほうこくしたいことを新聞にまとめて書こう 見学したことを新聞にまとめよう 10時間（書⑩） 教：4上p54～61 ◇見学したことをもとに情報を整理するとともに、見出しや割り付けを考え、読み手に分かりやすくなるよう、工夫して新聞を作ることができる。【知】：(2)イ、【書】：(1)ア、イ、オ、(2)ア	9	①学習のめあてを確かめ、新聞作りの手順や読み手に伝わりやすい記事を書くという見通しをもつ。 ②取材の計画を立て「取材カード」にまとめる。 ③取材の方法を考え、実際にインタビューなどの取材を行うための練習をする。 ④書いた「取材カード」を分類し、記事カードに整理する。 ⑤新聞の作り方を知り、記事の配置や分量、写真や表の大きさや位置を考え、割り付けをする。 ⑥記事の下書きをし、それぞれの見出しや資料を考える。 ⑦割り付けをもとに清書するとともに、写真や資料などを貼り、記事を完成させる。 ⑧新聞を読み合い、記事の分かりやすさや見出し、割り付けの工夫などについて良いところを伝え合う。 ⑨学習の振り返りをする。	【知】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。［知・技 (2)イ］ 【書】相手や目的を意識して、書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。［思・判・表 B(1)ア］ 【書】書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えることができる。［思・判・表 B(1)イ］ 【書】書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合うことができる。［思・判・表 B(1)オ］ 【学】進んで読み手を意識して書き方を工夫し、学習課題に沿って新聞にまとめようとする。［学びに向かう力、人間性等］
言葉をおくろう お礼状を書こう 5時間（書⑤） 教：4上p62～63 ◇手紙の形式を捉え、目的を意識して気持ちが伝わるように、お礼状を書くことができる。【知】：(1)キ、【書】：(1)イ、エ、(2)イ	3.5	①学習の目的とめあてをつかむ。 ②お礼状の基本的な形式を押さえ、学習の見通しをもつ。 ③お礼状を送る相手に伝えたいことを決め、ノートに書き出して整理する。 ④ノートに書いたことをもとに、形式に従ってお礼状の下書きを書く。 ⑤書いた手紙を読み合い、間違いや分かりにくいところを正したり、宛名を書いたりする。 ⑥清書し、学習の振り返りをする。	【知】敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。［知・技 (1)キ］ 【書】書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくって、文章の構成を考えることができる。［思・判・表 B(1)イ］ 【書】間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。［思・判・表 B(1)エ］ 【学】進んで書式を確かめながら、学習課題に沿って気持ちが伝わるようなお礼状を書こうとする。［学びに向かう力、人間性等］
季節のたより（夏） 1時間（書①） 教：4上p64～65 ◇夏の気象や様子を表す言葉や俳句に興味をもち、夏を感じた時の様子が伝わるように、詩に表すことができる。【知】：(1)オ、【書】：(1)オ、(2)ウ	0.5	①教科書の写真を見たり俳句を読んだりして、夏の気象や様子を表す言葉を知る。 ②夏を感じた経験やもの、言葉をもとに、その様子がよく分かるよう、詩を書く。	【知】様子を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。［知・技 (1)オ］ 【書】文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。［思・判・表 B(1)オ］ 【学】進んで語句の量を増し、今までの学習を生かして、詩に表そうとする。［学びに向かう力、人間性等］
4　表にしてくらべながら読もう 手で食べる、はしで食べる 6時間（読⑥） 教：4上p66～73 ◇意味段落ごとの要点をつかみ、事例を比べて確かめることで、筆者の考えをつかみ、互いの感想を伝え合うことができる。【知】：(1)カ、(2)イ、【読】：(1)ア、オ、カ、(2)ア	5	①全文を読み、日常の食事について考える。 ②文章の内容の大体を捉える。 ③文章全体を意味段落のまとまりで分け、それぞれの要点をまとめる。 ④単元の学習の見通しをもつ。 ⑤事例を比べて考え、表にまとめて、それぞれの違いを読み取る。 ⑥筆者の考えを、それを支える二つの事例をもとに確かめる。 ⑦読んで理解したことをもとに、自分の考えを本文の叙述を引用してノートにまとめ、話し合う。 ⑧学習の振り返りをする。	【知】接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。［知・技 (1)カ］ 【知】比較の仕方を理解し使うことができる。［知・技 (2)イ］ 【読】段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。［思・判・表 C(1)ア］ 【読】文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。［思・判・表 C(1)オ］ 【読】文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。［思・判・表 C(1)カ］ 【学】進んで筆者の考えをつかみ、学習課題に沿って事例を比べながら読もうとする。［学びに向かう力、人間性等］
調べたことを書こう 文化のちがいを調べよう 8時間（書⑧） 教：4上p74～77 ◇調べた材料をもとに、内容のまとまりで段落を作り、比べて分かったことや自分の考えとの関係に注意しながら、構成を考えて文章を書くことができる。【知】：(1)カ、【書】：(1)ア、イ、ウ	7.5	①世界各国の生活や文化をテーマに、調べたいことを出し合い、調べることを決める。 ②例文を読み紹介するための文章の書き方を知る。 ③調べて分かったことをメモに書き出して表にまとめ、比べて分かったことや自分の考えを書く。 ④内容のまとまりや文章構成を考える。 ⑤組み立て表をもとに文章を書く。 ⑥友達と助言し合い、推敲する。 ⑦友達と読み合い、内容や構成の良かったところなど、感想を伝え合う。 ⑧学習の振り返りをする。	【知】段落の役割について理解することができる。［知・技 (1)カ］ 【書】集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。［思・判・表 B(1)ア］ 【書】書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えることができる。［思・判・表 B(1)イ］ 【書】自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にすることができる。［思・判・表 B(1)ウ］ 【学】進んで事例を比べて違いなどを見出し、学習課題に沿ってまとまりを考えながら文章を書こうとする。［学びに向かう力、人間性等］
「根きょ」と「理由」を区べつしよう 自分の意見を組み立てて説明しよう 3時間（知技①話聞①読①） 教：4上p78～83 ◇考えと理由・根拠の関係を明らかにして自分の意見を組み立て、説明し合うことができる。【知】：(2)ア、【話】：(1)オ、【読】：(1)オ	3	①相手に理解してもらうためのコツとして、「根拠・理由・意見」の関係をつかむ。 ②物語の登場人物について、根拠・理由を意識して説得力のある意見を伝え合う。 ③描かれていることを根拠に自分の考えを説明する。	【知】考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる。［知・技 (2)ア］ 【話】互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。［思・判・表 A(1)オ］ 【読】文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。［思・判・表 C(1)オ］ 【学】進んで情報と情報との関係を理解しようとし、学習課題に沿って考えとそれを支える理由や事例との関係について考えようとする。［学びに向かう力、人間性等］

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
言葉を受け止めよう 言葉のいろいろな表情 2時間（話聞②） 教：4上p84～85 ◇相手とより良い関係を築くための話し方や態度を考えることができる。【知】：（1）ア、イ、【話】：（1）オ	2	①教科書に例示された文を読み、それぞれどんな気持ちが伝わるかを考える。 ②提示された短い会話文について、伝わり方を出し合う。 ③言い方によって、受け手の印象が違うことについて確かめ、どのような態度や言い方にすれば相手の気持ちに立てるかを話し合う。 ④学習の振り返りをする。	【知】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。［知・技 （1）ア］ 【知】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。［知・技 （1）イ］ 【話】互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。［思・判・表 A（1）オ］ 【学】言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。［学びに向かう力、人間性等］
3年生で習った漢字② 言葉をつないで文を作ろう 1時間（書①） 教：4上p86 ◇3年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。【知】：（1）エ、【書】：（1）エ	0.5	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や表記の仕方、漢字などが正しく使われているかなどを確かめ合う。	【知】当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。［知・技 （1）エ］ 【書】間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。［思・判・表 B（1）エ］ 【学】進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。［学びに向かう力、人間性等］
読書に親しもう 物語のみ力をしょうかいしよう ポレポレ 読書の部屋 6時間（知技③読③） 教：4上p87～105 ◇物語を楽しんで読み、作品や登場人物の魅力について交流することで、読書の幅を広げることができる。【知】：（2）イ、（3）オ、【読】：（1）イ、カ、（2）イ	4.5	①活動の見通しをもち、全文を読む。 ②読んで気付いたことを自由に書き出す。 ③書き出したことをもとにグループで話し合い、観点別に整理する。 ④発表原稿を作成する。 ⑤発表の練習をして、グループ代表を決める。 ⑥発表会を行い、大賞を決めた理由を伝える。 ⑦読書カードをまとめ、交流する。	【知】引用の仕方を理解し使うことができる。［知・技 （2）イ］ 【知】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。［知・技 （3）オ］ 【読】登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。［思・判・表 C（1）イ］ 【読】文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。［思・判・表 C（1）カ］ 【学】積極的に幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って読書の楽しさやよさを感じながら読もうとする。［学びに向かう力、人間性等］
詩を味わおう かぼちゃのつるが ふしぎ 2時間（読②） 教：4上p106～107 ◇情景や作者の思いを想像し、感じ取ったことをもとに工夫して音読するとともに、思ったことを伝え合い、感じ方の違いに気付くことができる。【知】：（1）ク、【読】：（1）エ、カ	2	①「かぼちゃのつるが」の情景を想像して、表現の工夫について出し合い、読み取ったことを生かして音読する。 ②「ふしぎ」の内容のおもしろさや作者の思いについて出し合い、読み取ったことを生かして音読したり連をつくったりする。	【知】構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。［知・技 （1）ク］ 【読】情景について、具体的に想像することができる。［思・判・表 C（1）エ］ 【読】文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。［思・判・表 C（1）カ］ 【学】進んで表現の工夫や感じ方の違いに気付き、学習課題に沿って詩を読もうとする。［学びに向かう力、人間性等］
みんなに伝えよう こんなに成長したよ 2時間（話聞②） 教：4上p110～111 ◇自身を振り返って話題を決め、きっかけとなる出来事や思いなどをもとに構成を考え、聞き手に伝わるよう、抑揚や強弱などを工夫して話すことができる。【知】：（1）イ、【話】：（1）ア、イ、ウ	1.5	①モデル文を読み、自分が成長したと思うことについてスピーチするという課題をつかむ。 ②話す事柄を決め、スピーチの組み立て（話題の中心、きっかけとなる出来事や思い）を考える。 ③抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して、自分の成長について話す。 ④友達のスピーチについて、自分と比べながら感想を伝え合う。 ⑤学習の振り返りをする。	【知】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。［知・技 （1）イ］ 【話】日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。［思・判・表 A（1）ア］ 【話】相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。［思・判・表 A（1）イ］ 【話】話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。［思・判・表 A（1）ウ］ 【学】進んで聞き手を意識して、学習課題に沿って話の構成や話し方を工夫し話そうとする。［学びに向かう力、人間性等］
言葉のきまり1 接続語 2時間（知技②） 教：4上p112～113 ◇文と文との意味のつながりや関係性を考えながら、接続語を適切に使うことができる。【知】：（1）カ	2	①例文をもとに、接続語の順接と逆接の働きと使い方を確かめる。 ②その他の接続語について、働きを整理する。 ③接続語によって表れる意味に違いがあることを知る。 ④接続助詞を使い、二文を一文にすることができることを確かめる。 ⑤教科書の課題に取り組んだり、文作りをしたりして、接続語の役割について理解を深める。	【知】接続する語句の役割について理解することができる。［知・技 （1）カ］ 【学】進んで接続語の役割を理解し、今までの学習を生かして、適切に使おうとする。［学びに向かう力、人間性等］
言葉のいずみ2 漢字のいろいろな読み方・送りがな 2時間（知技②） 教：4上p114～115 ◇複数の音読みをもつ漢字の読み方や、特別な読み方をする漢字、送り仮名の付け方について理解することができる。【知】：（1）ウ	2	①例文を読み、複数の音読みのある漢字やその由来を知る。 ②教科書を読み、二字以上の漢字からなる熟語に、特別な読み方をするものがあることを確かめる。 ③訓読みは、使い方によって送り仮名の形が変わることを確かめる。	【知】漢字と仮名を用いた表記や、送り仮名の付け方を理解することができる。［知・技 （1）ウ］ 【学】進んで漢字の読み方や送り仮名の付け方を理解し、今までの学習を生かして、言葉を適切に使おうとする。［学びに向かう力、人間性等］

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
文章の書き方・まとめ方 文章のまとまりと分かりやすさ 2時間（書②） 教：4上p116～117 ◇分かりやすい文章になるように、内容のまとまりや一文の長さを考えながら、文章を整えることができる。【知】：（1）ウ、カ、【書】：（1）イ、エ	1	①例示された文を読み、気付いたことや、分かりやすい文章にするにはどうしたら良いかなどを出し合う。 ②例示された文を書き直す。 ③書き直したものを読み合い、他にも工夫できるところがあるかどうか、直す前と比べてどのような良さがあるか、などを話し合う。 ④これまで書いた行事作文や感想文などから書き直したいものを選び、一文の長さやまとまりを意識して文章を整える。 ⑤学習の振り返りをする。	【知】改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。［知・技 （1）ウ］ 【知】段落の役割について理解することができる。［知・技 （1）カ］ 【書】内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えることができる。［思・判・表 B（1）イ］ 【書】目的を意識した表現になっているかを確かめ、文や文章を整えることができる。［思・判・表 B（1）エ］ 【学】進んで文章の表現の仕方を確かめ、今までの学習を生かして、文章を整えようとする。［学びに向かう力、人間性等］
言葉のひびきやリズムを楽しもう 短歌 4時間（知技④） 教：4上p118～123 ◇短歌に親しみ、言葉の響きやリズムを感じ取りながら、音読することができる。【知】：（3）ア	4	①短歌が三十一音で作られていることなどの特徴を知る。 ②近代の短歌や百人一首を音読し、言葉の響きやリズムを楽しむ。 ③pp.120～121の①から④の手順に従い、選んだ歌と似ている点を見つけ、発表し合う。 ④百人一首の中から気に入った歌を選び、音読したり、感想を伝え合ったりする。	【知】短歌の特徴をつかみ、言葉の響きやリズムを感じ取りながら音読することができる。［知・技 （3）ア］ 【学】進んで短歌の特徴をつかみ、今までの学習を生かして、言葉の響きやリズムに注意したり風景を想像したりして音読しようとする。［学びに向かう力、人間性等］
5　問題解決のために話し合おう 安全マップを作って話し合おう 6時間（話聞⑥） 教：4上p124～129 ◇「安全マップ」を作るために、集めた材料を比較・分類し、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら、安全な登下校をするための方法についての考えをまとめることができる。【知】：（1）キ、【話】：（1）ア、オ、（2）イ、ウ	6	①学習のめあてを確かめ、見通しをもつ。 ②グループごとに調べた通学路の危険な場所を出し合いながら、地図に書き込み、疑問点について調べる。 ③危険の度合いについてより詳しく話し合い。対応方法を考えて、地図を完成させる。 ④安全マップをもとに、グループごとに発表する。 ⑤それぞれの発表をもとに、通学路の危険の特徴について話し合う。 ⑥発表をもとに話し合いの柱を決め、クラスで話し合う。 ⑦学習を振り返り、話し合いで大切なことをまとめる。	【知】丁寧な言葉を使うことができる。［知・技 （1）キ］ 【話】目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。［思・判・表 A（1）ア］ 【話】目的や進め方を確認しながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。［思・判・表 A（1）オ］ 【学】進んで共通点や相違点を考え、問題解決に向かって話し合おうとする。［学びに向かう力、人間性等］
3年生で習った漢字③ 言葉をつないで文を作ろう 1時間（書①） 教：4上p130 ◇3年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。【知】：（1）エ、【書】：（1）エ	0.5	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や表記の仕方、漢字などが正しく使われているかなどを確かめ合う。	【知】当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。［知・技 （1）エ］ 【書】間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。［思・判・表 B（1）エ］ 【学】進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。［学びに向かう力、人間性等］
水平線 1時間（読①） 教：4下p①～1 ◇表現に着目しながら、描かれている様子を想像したり、作者の思いを感じ取ったりし、工夫して音読することができる。【知】：（1）ク、【読】：（1）エ	1	①「水平線」を音読し、感想やおもしろい表現について出し合う。 ②文末表現や繰り返しなどに着目したり、描かれている様子（「横→縦→奥」の視点）を捉えたりして、工夫して音読する。 ③学習の振り返りをする。	【知】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。［知・技 （1）ク］ 【読】情景について具体的に想像することができる。［思・判・表 C（1）エ］ 【学】進んで情景を想像したり、作者の思いを感じ取ったりして、今までの学習を生かして音読しようとする。［学びに向かう力、人間性等］
言葉から想像しよう 組み合わせた言葉のイメージを楽しもう 3時間（知技①話聞②） 教：4下p6～8 ◇言葉から発想を広げ、語彙を豊かにすることができる。【知】：（1）ア、オ、【話】：（1）ア、イ	3	①p.6を参考にしてp.7の課題に取り組み、組み合わせた言葉からイメージしたことを、メモに書き留める。 ②書いたメモをもとに、言葉からイメージしたことを説明し合う。 ③学習の振り返りをする。	【知】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。［知・技 （1）ア］ 【知】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。［知・技 （1）オ］ 【話】集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。［思・判・表 A（1）ア］ 【話】相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えることができる。［思・判・表 A（1）イ］ 【学】進んで組み合わせた言葉からイメージし学習課題に沿って説明し合おうとする。［学びに向かう力、人間性等］
1　二つの文章をくらべて読もう 空飛ぶふろしき　ムササビ ムササビがくらす森 8時間（読⑧） 教：4下p9～17 ◇二つの文章を読み比べながら、目的に合わせて要約し、自分の考えを伝え合うことができる。 【知】：（2）ア、【読】：（1）ア、ウ、オ、（2）ア	7.5	①題名から、二つの文章の内容を考える。 ②全文を読んで、初発の感想を述べ合い、めあてを確かめる。 ③二つの文章の要点を、意味段落ごとにまとめる。 ④観点をもとに、二つの文章の説明の仕方を比べる。 ⑤目的に合わせて文章を要約し、友達と読み合う。 ⑥自分の考えをもとにした要約文の内容を家の人に伝え、伝わり方を確かめる。 ⑦学習の振り返りをする。	【知】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。［知・技 （2）ア］ 【読】段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。［思・判・表 C（1）ア］ 【読】目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。［思・判・表 C（1）ウ］ 【読】文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。［思・判・表 C（1）オ］ 【学】進んで目的に合わせた要約の仕方や、読み比べるための観点を考え、学習の見通しをもって読み進めようとする。［学びに向かう力、人間性等］

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
季節のたより(秋) 1時間(書①) 教:4下p18～19 ◇秋の気象や様子を表す言葉や俳句に興味をもち、秋を感じた時の様子が伝わるように、詩に表すことができる。【知】:(1)オ、【書】:(1)オ、(2)ウ	0.5	①教科書の写真を見たり俳句を読んだりして、秋の気象や様子を表す言葉を知る。 ②秋を感じた経験やもの、言葉をもとに、その様子がよく分かるよう、詩を書く。	【知】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知・技 (1)オ] 【書】文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表 B(1)オ] 【学】進んで語句の量を増し、今までの学習を生かして、詩に表そうとする。[学びに向かう力、人間性等]
昔から言い伝えられてきた言葉にふれよう ことわざ・故事成語 2時間(知技②) 教:4下p20～23 ◇ことわざや故事成語について知り、意味を理解して使うことができる。【知】:(2)イ、(3)イ	1.5	①二つの言葉の意味を辞典で調べ、ことわざについて知る。 ②ことわざを辞典などで調べ、カードにまとめる。 ③故事成語の解説を読み、成り立ちと意味を辞典で調べる。 ④ことわざや故事成語が普段の生活の中で使えることを知り、学習を振り返る。	【知】辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。[知・技 (2)イ] 【知】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うことができる。[知・技 (3)イ] 【学】進んでことわざや故事成語に興味をもち、学習課題に沿って調べようとする。[学びに向かう力、人間性等]
対話して読む:筆者の視点を追って読もう 「落ち葉」ではなく「落ちえだ」 2時間(読②) 教:4下p24～27 ◇筆者の考えの進め方を捉え、問いをもちながら読むことができる。【知】:(1)カ、【読】:(1)ア	1.5	①本文を読み、「読む手がかり」を確かめる。 ②「つぶやき」を参考にし、筆者の考えの進め方を追いながら読む。 ③分かったことなどを、友達と伝え合う。 ④学習の振り返りをする。	【知】指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。[知・技 (1)カ] 【読】段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア] 【学】進んで筆者のものの見方や考え方に触れ、学習課題に沿って問いをもって読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]
2 効果的に伝わるように書こう クラブのしょうかいチラシを作ろう 身の回りのメディアを研究しよう 8時間(話聞②書⑥) 教:4下p28～33 ◇紹介したいことが効果的に伝わるような、キャチコピーやボディコピーの表現の仕方を考え、チラシを書くことができる。【知】:(1)ア、キ、【書】:(1)ウ、エ、(2)ア、【話】:(1)ア、(2)ウ	7.5	①学習課題やめあてを確かめ、学習の見通しをもつ。 ②自分のクラブ活動について思い出し、活動の内容や楽しさなど、クラブを紹介することを書き出す。 ③紹介したいことをもとに、キャッチコピーとボディコピーを作る。 ④写真やイラストを入れ、配置を考えてチラシを仕上げる。 ⑤作ったチラシが読み手の興味をひくものかどうかを考えながら、推敲する。 ⑥チラシをもとに、クラブの良さを三年生に紹介する。 ⑦身の回りからお菓子の包装紙や箱を集め、それらの特徴を調査する。 ⑧調査して気付いたことを発表し合う。 ⑨学習の振り返りをする。	【知】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。[知・技 (1)ア] 【知】敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。[知・技 (1)キ] 【話】集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表 A(1)ア] 【書】書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 【書】間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表 B(1)エ] 【学】進んで効果的な伝わり方を考え、学習課題に沿って表現しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
言葉のいずみ1 熟語の組み合わせと読み方 3時間(知技③) 教:4下p34～37 ◇熟語の構成について知り、組み合わせ方や意味について理解することができる。【知】:(1)エ	2.5	①熟語の定義を知り、漢字の意味を考えながら熟語の構成について理解する。 ②同じ読み方の熟語の適切な使い分けを理解する。 ③国語辞典や漢字辞典を使って熟語を集め、組み合わせ方や意味を捉える。	【知】第4学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技 (1)エ] 【学】進んで4年生の配当漢字や熟語の構成について興味をもち、学習課題に沿って意味を考えながら適切に使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
ゆたかに表現しよう 心に残っていること 7時間(書⑦) 教:4下p38～39 ◇心に残ったことや感じたことを、表現を工夫して詩に表し、感想を伝え合うことができる。【知】:(1)ア、キ、【書】:(1)ウ、エ、(2)ウ	4	①モデルの詩と普通の文章を比べ、気付いたことを出し合う。 ②これまでに書いた作文や日記を読み返し、詩で表したいものを選ぶ。 ③普通の文章とは違った、凝縮した表現になるよう工夫して詩を書く。 ④書いた詩を友達と読み合い、良いところや感想などを伝え合う。 ⑤学習の振り返りをする。	【知】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。[知・技 (1)ア] 【知】敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。[知・技 (1)キ] 【書】書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 【書】目的を意識した表現になっているかを確かめることができる。[思・判・表 B(1)エ] 【学】進んで表現の工夫について考え、詩を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
漢字の広場1 1時間(知技①) 教:4下p40 ◇4年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。【知】:(1)エ	1	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	【知】第4学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技 (1)エ] 【学】進んで4年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文の中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
3年生で習った漢字① 言葉をつないで文を作ろう 1時間(書①) 教:4下p41 ◇3年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。【知】:(1)エ、【書】:(1)エ	0.5	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や表記の仕方、漢字などが正しく使われているかなどを確かめ合う。	【知】当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)エ] 【書】間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表 B(1)エ] 【学】進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
3　人物の関係と気持ちの変化を読もう ごんぎつね 10時間（読⑩） 教：4下p42～61 ◇人物同士の関係から、人物の心情とその変化をつかむことができる。【読】：（1）イ、エ、オ、（2）イ	10	①全体を読み、めあてを確かめる。 ②初発の感想を交流する。 ③場面ごとに題を付け、全体を捉える。 ④人物の性格や気持ちと、その変化を捉える。 ⑤視点の変化とその効果を捉える。 ⑥最後の場面の、人物同士の思いを捉える。 ⑦終わり方の表現の効果を考え、作品全体のメッセージを共有する。 ⑧学習の振り返りをする。	【読】登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。［思・判・表　C（1）イ］ 【読】登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。［思・判・表　C（1）エ］ 【読】文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。［思・判・表　C（1）オ］ 【学】進んで人物同士の関係や気持ちの変化、描写による効果について捉え、読み進めようとする。［学びに向かう力、人間性等］
日本各地の短歌 2時間（知技②） 教：4下p62～63 ◇日本各地の短歌や地域とつながりのある短歌を知り、音読を通して、文語の調子に親しむことができる。【知】：（1）エ、（3）ア	2	①提示された短歌を、言葉の響きやリズムを感じ取りながら音読する。 ②地域にゆかりのある歌人や、地域の景色を詠んだ歌を調べ、音読したり地域の文化を理解したりする。 ③都道府県で使われる漢字を読み書きし、興味をもった都道府県とつながりのある短歌について調べたことをノートにまとめる。	【知】第4学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。［知・技　（1）エ］ 【知】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。［知・技　（3）ア］ 【学】進んで日本各地の短歌や、地域とつながりのある短歌に興味をもち、今までの学習を生かして調べようとする。［学びに向かう力、人間性等］
読書を広げよう 生活の中に生きている読書 読書の部屋 1時間（知技①） 教：4下p64～67 ◇読書が生活に役立つことを知り、読書の幅を広げることができる。【知】：（3）オ	1	①教科書本文を読み、読書が自分の興味を広げるのに役立つことに気付く。 ②これまで書店や図書館で本を選ぶ際に気付いたことなどを出し合う。 ③今後どのような本を読みたいか、友達と交流する。 ④読書の部屋を見て、読書の幅を広げることに関心をもつ。	【知】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。［知・技　（3）オ］ 【学】進んで読書生活について考え、今までの学習を生かして読書に親しもうとする。［学びに向かう力、人間性等］
季節のたより（冬） 1時間（書①） 教：4下p68～69 ◇冬の気象や様子を表す言葉や俳句に興味をもち、冬を感じた時の様子が伝わるように、詩に表すことができる。【知】：（1）オ、【書】：（1）オ、（2）ウ	0.5	①教科書の写真を見たり俳句を読んだりして、冬の気象や様子を表す言葉を知る。 ②冬を感じた経験やもの、言葉をもとに、その様子がよく分かるよう、詩を書く。	【知】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。［知・技　（1）オ］ 【書】文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。［思・判・表　B（1）オ］ 【学】進んで語句の量を増し、今までの学習を生かして、詩に表そうとする。［学びに向かう力、人間性等］
4　資料を作って発表しよう ドリームツリーを作ろう 10時間（話聞⑩） 教：4下p70～77 ◇作ったドリームツリーをもとに、聞き手に分かりやすくなるように話の構成を考え、工夫して話すことができる。【知】：（1）イ、【話】：（1）イ、ウ、エ、（2）ア	10	①学習課題とめあてを確かめ、見通しをもつ。 ②自分の夢について考え、例を参考にして、ドリームツリーの根や土、幹、枝葉のそれぞれをまとめる。 ③作ったドリームツリーをもとに、話の組み立てを考え、発表の練習をする。 ④発表会を開き、ドリームツリーを使って発表する。 ⑤発表の内容や指し示し方、話し方について、感想を伝え合う。 ⑥分かりやすく話すことができたかなど、学習の振り返りをする。	【知】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。［知・技　（1）イ］ 【話】相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。［思・判・表　A（1）イ］ 【話】話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。［思・判・表　A（1）ウ］ 【話】話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。［思・判・表　A（1）エ］ 【学】進んで話の構成を考え、聞き手に分かりやすくなるように話そうとする。［学びに向かう力、人間性等］
5　自分の考えを深めるために読もう さわっておどろく 5時間（読⑤） 教：4下p78～86 ◇筆者の体験とそこから得た意見とを関係付けながら読み、共有し合うことで、自分の考えを深めることができる。【知】：（2）ア、【読】：（1）ア、オ、カ	4.5	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②視覚障害やユニバーサルデザインについて、知っていることなどを出し合う。 ③筆者の体験と思い・考えについて表にまとめ、全体を捉える。 ④筆者がたどり着いた考えを確かめ、題名の意味を問い直す。 ⑤自分の経験と、読んで理解したことを結び付け、自分の考えを深める。 ⑥叙述をもとに、筆者の視点のおもしろさや、説得力のもたせ方などについて考える。 ⑦学習の振り返りをする。	【知】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。［知・技　（2）ア］ 【読】段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。［思・判・表　C（1）ア］ 【読】文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。［思・判・表　C（1）オ］ 【読】文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。［思・判・表　C（1）カ］ 【学】進んで筆者の体験と表現との関係を捉え、学習学程に沿って読み進めようとする。［学びに向かう力、人間性等］
3年生で習った漢字② 言葉をつないで文を作ろう 1時間（書①） 教：4下p87 ◇3年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。【知】：（1）エ、【書】：（1）エ	0.5	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や表記の仕方、漢字などが正しく使われているかなどを確かめ合う。	【知】当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。［知・技　（1）エ］ 【書】間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。［思・判・表　B（1）エ］ 【学】提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。［学びに向かう力、人間性等］

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
考えたものを文章に書こう こんなアイデア、どうかな 10時間（書⑩） 教：4下p88～91 ◇自分が考えたアイデアが分かりやすく伝わるように、文章構成や論の進め方を考えて、文章を書くことができる。【知】：（1）カ、【書】：（1）ア、イ、オ	9	①学習課題と進め方を確かめる。 ②身の回りのものから問題点などを出し、誰もがくらしやすい社会になるためのアイデアを出し合う。 ③出し合ったアイデアから追求したいことを選び、観点を整理して表にまとめる。 ④表をもとに、文章の組み立てや論の進め方を考え、文章を書く。 ⑤書いた文章を推敲する。 ⑥友達と読み合い、考えと事例とのつながり方など、感想を伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	【知】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。［知・技 （1）カ］ 【書】目的を意識して、想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。［思・判・表 B（1）ア］ 【書】書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。［思・判・表 B（1）イ］ 【書】書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。［思・判・表 B（1）オ］ 【学】進んでまとまりや全体の構成を考え、学習課題に沿って文章を書こうとする。［学びに向かう力、人間性等］
言葉のきまり1 形の変わる言葉 2時間（知技②） 教：4下p92～93 ◇動きや様子を表す言葉が、文の形によって形を変えることを理解し、適切に送り仮名を付けることができる。【知】：（1）ウ	2	①例文をもとに、動きを表す言葉の変化を確かめ、教科書の課題に取り組む。 ②例文をもとに、様子を表す言葉の変化を確かめ、教科書の課題に取り組む。	【知】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うことができる。［知・技 （1）ウ］ 【学】進んで送り仮名の付け方を理解し、今までの学習を生かして、文の形を考えようとする。［学びに向かう力、人間性等］
言葉のいずみ2 類義語 2時間（知技②） 教：4下p94～95 ◇類義語の意味や場面の違いによる使い分けを理解し、文の中で使い分けることができる。【知】：（1）オ	1.5	①類義語の定義と注意点について理解する。 ②例示された言葉を使って文を作り、適切な使い方について考える。 ③課題②に取り組み、良いと思われる表現について考える。 ④適切な表現かどうかを考えて話し合い、辞書で確かめる。 ⑤例示されたもの以外の類義語を集め、考えた類義語と文例について話し合う。	【知】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。［知・技 （1）オ］ 【学】進んで類義語の意味や、場面の違いによる使い分けを理解し、今までの学習を生かして、文の中で適切に使おうとする。［学びに向かう力、人間性等］
想像を広げよう これであなたも作家になれる 10時間（書⑩） 教：4下p96～101 ◇四こままんがをもとに、全体のすじを考えながら物語を作り、書いた物語の良いところを伝え合うことができる。【知】：（1）ア、【書】：（1）イ、オ、（2）ウ	5	①四こままんがをもとに、物語を作るという課題をつかむ。 ②p.96の四こままんがのすじを考えて、並べ替える。 ③一こまごとの様子を、起承転結の展開に沿って短い文で表し、お話の題名を付ける。 ④p.98の四こままんがの終末を想像し、お話全体のすじや題名を考える。 ⑤p.99の四こままんがの「終わり」に入る吹き出しの言葉を出し合い、お話全体のすじや題名を考える。 ⑥p.100の四こままんがから、行動や会話など想像したことを出し合い、ノートに書く。 ⑦四こままんがに合うように、人物が思ったことや会話文などを入れながら、展開を考えて物語を書く。 ⑧友達と読み合い、良いところや感想を伝え合う。 ⑨学習の振り返りをする。	【知】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。［知・技 （1）ア］ 【書】段落相互の関係に注意して、文章の構成を考えることができる。［思・判・表 B（1）イ］ 【書】書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。［思・判・表 B（1）オ］ 【学】進んでお話の展開を考え、学習課題に沿って文を書こうとする。［学びに向かう力、人間性等］
6　表現に着目して読もう 世界でいちばんやかましい音 6時間（読⑥） 教：4下p102～119 ◇設定やあらすじ、表現の工夫などに着目して問いを作り、叙述をもとに互いの読みを交流しながら、読み深めることができる。【知】：（1）ク、【読】：（1）イ、オ、カ、（2）イ	6	①題名読みをして、結末について予想する。 ②全文を読み、めあてを確かめる。 ③初発の感想を交流する。 ④音読を通して物語のすじや人物の変容を捉え、全体を四つの場面に分ける。 ⑤語り手の語り方に着目し、表現の効果について考える。 ⑥物語のおもしろさについて、内容や表現に着目して出し合い、問いをつくる。 ⑦叙述をもとに、問いに対する答えを交流する。 ⑧読み取った中心人物の人物像や、周辺人物の様子をもとに、自分の考えを伝え合う。 ⑨学習の振り返りをする。	【知】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。［知・技 （1）ク］ 【読】登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。［思・判・表 C（1）イ］ 【読】文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。［思・判・表 C（1）オ］ 【読】文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。［思・判・表 C（1）カ］ 【学】進んで問いを作ったり表現の工夫に着目したりし、学習の見通しをもって読み進めようとする。［学びに向かう力、人間性等］

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
みんなに伝えよう 感謝の気持ちを話そう 2時間（話聞②） 教：4下p120～121 ◇身の回りの人との関わりの中から話題を決め、自分の思いが聞き手に伝わるよう、表現を工夫して話すとともに、自分と比べながら聞き、思いを深めることができる。【知】：（1）イ、【話】：（1）ア、ウ、エ	1.5	①モデル文を読み、感謝の気持ちをもとにスピーチするという課題をつかむ。 ②話す事柄を決め、スピーチの組み立て（対象となる人、出来事や理由、自分の思い）を考える。 ③話す場面を意識して、抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して話す。 ④友達のスピーチをもとに感想を伝え合い、自分の思いを深める。 ⑤学習の振り返りをする。 ⑥二分の一成人式を行う場合は、スピーチ内容を手紙形式にまとめる。	【知】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。［知・技 （1）イ］ 【話】目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。［思・判・表 A（1）ア］ 【話】話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。［思・判・表 A（1）ウ］ 【話】話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。［思・判・表 A（1）エ］ 【学】進んで身の回りの人との関わりの中から話題を決め、今までの学習を生かして工夫して話そうとする。［学びに向かう力、人間性等］
漢字の広場2 1時間（知技①） 教：4下p122 ◇4年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。【知】：（1）エ	1	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	【知】第4学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。［知・技 （1）エ］ 【学】進んで4年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文の中で使おうとする。［学びに向かう力、人間性等］
3年生で習った漢字③ 言葉をつないで文を作ろう 1時間（書①） 教：4下p123 ◇3年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。【知】：（1）エ、【書】：（1）エ	0.5	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や表記の仕方、漢字などが正しく使われているかなどを確かめ合う。	【知】当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。［知・技 （1）エ］ 【書】間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。［思・判・表 B（1）エ］ 【学】進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。［学びに向かう力、人間性等］
これからのあなたへ ぼくが　ここに 1時間（読①） 教：4下p124～125 ◇情景や作者の思いを想像しながら読み、自分の体験と結び付けたり、自身を対象化したりして、感想をもつことができる。【読】：（1）オ、カ	1	①「ぼくがここに」の情景を想像し、対比表現や倒置法などの表現の工夫を楽しみながら音読する。 ②詩から受け取った作者の思いを想像し、感想を交流する。 ③学習の振り返りをする。	【読】文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。［思・判・表 C（1）オ］ 【読】文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。［思・判・表 C（1）カ］ 【学】進んで作者の思いを想像し、今までの学習を生かして自分の体験と結び付けながら読もうとする。［学びに向かう力、人間性等］
四年生をふり返って 2時間（書②） 教：4下p126～128 ◇一年間の国語学習を振り返り、ためになったことやこれからも続けたいことを考えて書くことができる。【知】：（1）キ、【書】：（1）イ、オ	1.5	①一年間の国語学習を振り返り、頑張ったことやこれからも続けたいことを友達と話し合う。 ②書くことをメモに書き出し、簡単な構成を考える。 ③一年間を振り返る文章を書く。 ④友達と読み合い、感想を伝え合う。 ⑤学習を振り返り、これからの学習について話し合う。	【知】敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。［知・技 （1）キ］ 【書】内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。［思・判・表 B（1）イ］ 【書】文章に対する感想や意見を伝え合うことができる。［思・判・表 B（1）オ］ 【学】積極的に一年間で学んだこと思い出し、今までの学習を生かして文章にまとめようとする。［学びに向かう力、人間性等］